

平成29年度 能美市立辰口中学校 学校評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況	評価	学校関係者評価者 による意見	今後の改善策
1	組織的な学校運営	教頭・教務	＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、組織的な学校づくりが行われている。	＜教職員アンケート＞ 学校経営ビジョンを理解し、連携を図り実践しているか。	◇定期的な学年会や教科部会だけでなく、短時間でまめに会を開くよう心がけ、情報の共有や意思疎通を図ってきた。	B	◇危機管理、いじめ・不登校については、先生方が意識を高く持って努力していることを評価したい。	◇危機管理意識を高めるために、全体、学年、教育相談等の丁寧な情報の共有、及び報告・連絡・相談を徹底する。
		教頭・教務	＜努力指標＞ 学校行事等の機会を捉え、成果や課題の検証を行い、よりよくなることに努めている。	＜教職員アンケート＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながら、よりよい学校づくりに参画しているか。	◇学校行事や各種活動等の気づきを集め、改善や精選を図った。アンケート結果からも課題意識の向上がみられる。	A	◇OPDCAサイクルについて、どう改善するのかの話が大事であり、ここをやっていることと達成率が上がる。	◇今年度の各行事等の反省を元に改善案を作成しておくことと達成率に引き継ぎ実践する。
		生徒指導	＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	＜教職員アンケート＞ いじめ・不登校の生徒に対し、早期に適切な対応ができたか。情報の共有化は密にできているか。	◇毎週、教育相談の会を行い、常にアンテナを高くして情報の共有を行っている。◇これからも意識を高め、未然防止・早期対応に努める必要がある。	B		
2	確かな学力の育成（知）	教務	＜成果指標＞ 3つの視点「焦点化・視覚化・共有化」を意識し、活力ある授業が行われている。	＜教職員アンケート＞ ＜生徒アンケート＞ 「焦点化・視覚化・共有化」を考慮した、「わかる・できる」授業が実施できているか。	◇共通理解を図り、教職員は意識して取り組んできたが、授業がわかりやすいと感じる生徒の割合は伸び悩んでいる。	B	◇家庭学習の充実について、アンケート結果から保護者と子どもの意識の差が見られる。そこには家庭学習の本質、子どもにさせることの難しさが出ていないか。	◇2年生のアンケートからも分析されたようにゲーム(スマホ・タブレットを含む)に費やされる時間が長いことから、ゲームの時間削減や宿題の工夫をし、家庭学習時間を確保していく。
		教務・研究	＜努力指標＞ 各教科等で、発問の工夫や思考課題の設定を行うなどして、主体的対話的で深い学びを実現する。	＜教職員アンケート＞ ＜生徒アンケート＞ 生徒自身に、既習事項を活用して思考・判断し表現させることを積極的にやっているか。	◇教職員は全員が言語活動の充実を図りながら授業を行ってきた。総合の課題研究で最大限に生かせるよう、各教科の授業でさらに意識することが必要である。	B	◇家庭学習での親と子どものギャップについて、どうしてなのかを学校でも検証してほしい。	◇今年度の反省を元に再度生徒の学力の現状確認を行い、次年度の授業改善に向けた具体的な手立てを準備しておく。
		教務・研究	＜満足度指標＞ 学校は家庭と連携し、家庭学習や読書の習慣を涵養している。	＜保護者アンケート＞ ＜生徒アンケート＞ 家庭学習や読書習慣、自ら学ぶ積極的な態度が身についたか。	◇教職員は生徒に指導し、家庭に大切さを伝えてきた。家庭学習においては、保護者の回答は達成率が高いが、生徒は達成の割合が中間期より減少している。	B	◇保護者はよく勉強のことを言うが、親が本当にみているのか疑問に思う。子どもが勉強しているときに、近くでモチベーションを上げるのは親の役目。	
		教務	＜成果指標＞ 学びのPDCAサイクルを構築し、基礎学力の定着、活用力の向上に努めている。	＜教職員アンケート＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証ができていくか。評価テストの通過率が向上しているか。	◇学力の検証を行い、学びの改善に向けた取組は向上しているが、評価テストの通過率とともにまだ充分とはいえない。	B	◇先生方の頑張りも見ているし、県と同等かやや上なのでこれ以上は望まない。	
3	豊かな心の育成（徳）	研究	＜満足度指標＞ 「アクティブ・モラル・ラーニング」を継続し、生徒の道徳的価値を深めようとしている。	＜生徒アンケート＞ 道徳の時間では自分の考えを友達と交流し、いろいろな角度から考えを深めることができたか。	◇昨年までの研究を生かしており、ほとんどの生徒が友達との考えの交流を有意義だと感じ、考えの深まりを実感している。	A	◇豊かな心の育成は高評価。Q-Uの結果もよく、評価できる。これがなぜよいのか、その原因は是非把握しておいてほしい。	◇生徒面談、Q-Uアンケートの使い方、活かし方を考えていく。
		生徒指導	＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動を通じて自治・自浄の能力を高め、開発的生徒指導に努める。	＜生徒アンケート＞ 生徒会活動やボランティア活動が活発で、学校生活が充実しているか。	◇生徒会を中心にボランティア等の機会を意識して設けており、生徒のボランティア活動への関心は高く、人の役に立ちたいと思っている。	A	◇豊かな心の育成は、家庭で親がどう伝えるか、親も頑張りたくないといけない。	◇保護者にも状況を伝えて、協力が得られる体制をつくる。
		生徒指導	＜努力指標＞ 生徒指導の三つの機能を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	＜教職員アンケート＞ Q-Uアンケート結果や生徒面談を活用し生徒理解を深め、親和的な学級づくりに努めているか。	◇Q-Uアンケートを活用するなどして、生徒理解とお互いを認め合える親和的な学級づくりに努めている。	A	◇学校行事で来校した際に、生徒に手伝ってもらったことが嬉しかった。挨拶もよくなっている。	
4	健やかな体の育成（体）	保健美化	＜成果指標＞ 教科体育や部活動を通じ、体力の向上や粘り強く努力する心づくりに努めている。	＜各種調査＞身体計測・スポーツテストの結果が向上しているか。 ＜教職員アンケート＞ 体格、体力、粘り強く努力する心は向上しているか。	◇体力テストの結果は、全国平均よりも低い種目があるが、部活動では生徒の主体性を活かした取組が継続してなされている。	A	◇「起きる時間」「寝る時間」「学習時間」の三点確保は、家庭での達成が27%と低い。「寝る時間」など保護者も頑張りしてほしい。	◇ハンドボール投げ等の技能の改善に向けた取組を広い視点で行っていく。
		生徒指導	＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握し、問題の解消に努めている。	＜保護者アンケート＞ 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	◇教育相談の会を生かすなど、教職員は全員が意識的に取り組んでいる。しかし、保護者の回答では、一部不十分であるとの記述もみられる。	B	◇体力について、先生方の部活動の得手、不得手もあると思うが、伸ばしてほしい。	◇年に1回は外部講師を招いて、ネットトラブル等の講演を行う。
		生徒指導	＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、家庭での話し合いやルール作りを行い、望ましい生活習慣の確立ができたか。	◇呼びかけや個々への対応は行っているが、改善に至っていない。生活習慣の確立に向けた時間の三点確保、ネットトラブル防止の啓発に継続的な取組が必要である。	B	◇健やかな体の育成については、親もしっかり取り組みたい。	◇生活習慣を見直せるよう、アカンサスノートなどの記録の仕方を工夫し改訂する。
5	家庭・地域との連携	教務・研究	＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考えさせるように努めている。	＜教職員アンケート＞ キャリア教育の視点を持ち、地域を生かした教育活動が行えたか。 ＜生徒アンケート＞ 総合的な学習の時間での課題研究では、ゲストティーチャーや先生から学ぶことができたか。	◇課題研究を中心に地域人材や施設・環境等を生かし、地域の未来や自分の在り方を考える機会を持つことができた。生徒の意識も高い。	A	◇家庭・地域との連携については高く評価したい。	◇次年度の課題研究の期間を延ばし、より深く地域を学ぶために地域人材等の活用を計画する。
		教頭・教務	＜努力指標＞ 学校からの通信やホームページ、メール配信システムを適確に活用している。	＜保護者アンケート＞ 通信やホームページに目を通し、学校の情報を把握している。	◇学校は、通信を出すことやメール配信ををこまめに行っている。 ◇保護者からは、HPや月曆の更新が遅いという意見もあり、改善が必要である。	B	◇大雪の日に学校が電話で情報を集め、地区の状況を気にかけていたことがありがたかった。	◇HPの更新について、月曆は少なくとも一ヶ月前にはアップしておく、大きな変更があればその都度修正を加える。